



梅花新聞【香里】
第36号

題字 管長 江川辰三 禅師
発行者 佐々木 孝一
発行所 曹洞宗事務庁
企画編集 伝道部詠道課

同心和合

曹洞宗 管長
大本山總持寺 貫首
江川辰三 えがわしんざん



平成二十六年の新春を謹んでお祝い申し上げ、ここに梅花講員の皆さまのご多様をお祈りいたします。

詠讚歌のすばらしさは、詠道の道場におられる方がたの仏教的な一体感が、この上なく深まっていくところにあると思います。

日頃弛まぬ研鑽を積まれている講員の皆さまが、お互いに協力して仲よくお唱えするお姿は、その大きな力によって人びとの心魂に訴え、法悦に導きます。

お一人おひとりが「和合」のこころを持つて共に詠ずることで、自然と満場が深い共感に包まれます。

高祖道元禅師さまは、仏道修行するにあたっては、「相互に慈愛の念を持ち、また自を顧み他にこころを寄せて行じなくてはならない。更に、今ここにこのように難値難遇の縁によってお互いに修行しているのだと思えば、必ず皆が和合和睦の表情となるものである」とお示しになりました。

また、太祖瑩山禅師さまも「和合」のこころの大切さを絶えず人びとに説示されま

した。

それは修行弁道の世界のみならず、僧侶と檀信徒との関係においても必ずこのこころを重んずるようにと示されました。そしてお互いに仲よく力を合わせて仏法を盛んにしていかなければならないとご教示になりました。

混迷が深まる世の中の情勢ですが、この「同心和合」の梅花の法輪が次第に大きな輪となり、「お誓い」にある「明るい世の中をつくる」ことにつながっていくことを念願します。

梅花流の更なる隆盛を冀うとともに、皆さまのご多幸を重ねて祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



お誓い

- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、明るい世の中をつくりまします。



平成二十五年

梅花流全国奉詠大会

(平成二十五年五月二十九日・三十日、宮城県総合運動公園グラウンディ・21)



平成二十五年五月二十九日・三十日の二日間、宮城県総合運動公園「グラウンディ・21」を会場に平成二十五年梅花流全国奉詠大会が開催されました。今大会では、東日本大震災被災物故者三回忌法要が併修され、被災地である宮城の地で梅花講員と一般参列者合わせ一万人を越える人々が、亡き人々へ哀悼の誠を捧げるとともに、被災地のいち早い復興を祈りました。

オープニング

オープニング映像放映の後、軽快な音楽

が鳴り始めると、地元(古)の古城幼稚園・若林幼稚園(二十九日)岩切東光第二幼稚園

(三十日)の園児たちがステージ上に登場しました。一生懸命に練習を重ねたダンスを披露し、今大会の幕開けを飾りました。その後、園児たちに導かれた副大会長の齋藤裕道伝道部長がステージで、開会を高らかに宣言しました。先ほどのダンスとはうって変わって、緊張した面持ちの園児たち。蠟燭と花を携え、ステージ上をゆっくり進んでいきます。無事に係の僧侶に手渡すと、最後の合掌礼拝までしっかりとこなし、献灯献花の大役を立派に勤め上げました。「お誓い」の挙唱師を、一日目は滝川澄江さん(瀧澤寺講)、滝川実樹男さん(瀧澤寺講)、秋山恵美子さん(高源院講)が、また二日目は大丸ひで子さん(功岳寺講)、政木佳子さん(功岳寺講)、佐藤京子さん(大雄寺講)がそれぞれお勤めになりました。

第一部 開会式

曹洞宗管長大本山永平寺貫首・福山諦法禪師に大導師をお勤めいただき、相見の拝の後、御垂示を賜りました。

第二部 式典

大会長である佐々木孝一宗務総長の挨拶の後、三宅良憲宮城県宗務所長より、宮城県の講員さんとともに歓迎のお言葉をいただきました。

第三部 登壇奉詠

大会一日目、二日目ともに十二





組ずつの代表登壇が行われ、日ごろの研鑽の成果を存分に発揮されていまして。代表者以外の参加者も、自

席にて心を込めてお唱えされていきました。また、登壇の最後に特派師範と地元師範による奉詠も行われました。

第四部 東日本大震災被災物故者三回忌法要

全五曲を披露し、会場は大いに盛り上がりました。第六部 閉会式 詠讚師の「坐禅御詠歌(浄心)」の独詠が始まると、会場は静寂に包まれました。

今大会では、管長猊下御親修による東日本大震災被災物故者三回忌法要が併修され、「妙法蓮華経如来寿量品偈」を読経した後、「追善供養御和讃」を参加者全員が立行でお唱えしました。実に六千もの鈴の音が会場全体に響き渡り、その荘厳な雰囲気は参加者全員に大きな感動を与えました。震災犠牲者の御霊と、深く傷ついた被災者の方がたの心に届くよう参加者全員が同じ思いで一生涯懸命にお唱えされていきました。

第五部 清興

今大会の清興には、宮城県を中心に活動されている歌手のさとう宗幸さんにお越しいただきました。代表曲である「青葉城恋唄」や震災復興ソングである「花は咲く」など

副大会長・齋藤伝道部長より閉会の言葉が述べられ、続いて次年度大会の開催地である伊藤皓元島根県第二宗務所長の挨拶となりました。伊藤宗務所長は、次年度大会への参加のお願いとともに、大会成功への決意を述べられました。

最後は「まごころに生きる」を全員で合唱し、無事にフィナーレを迎えた後、宮城、福島、岩手の議員さんによる「報謝御和讃」のお見送り奉詠がありました。遠路お越しいただいた他県の議員さんがたに、御礼の気持ちを込めて最後までお唱えされ、退場の瞬間まで感動の絶えない大会となりました。



政宗ばいかくん

宮城県全国大会に参加して

平成二十五年年度梅花流全国奉詠大会及び東日本大震災被災物故者三回忌法要が、被災地宮城県で開催されたことに、心より感謝いたします。大会初参加の私には、地元での開催ということで、尚身の引き締まる思いでした。次々に会場に到着する全国からの講員の方々の参加、又登壇奉詠に心から感動しました。私達の寺院は、リアス式海岸の中にあり、寺も私達檀家、講員もほとんどが、あの津波で家財の全てを失いました。講員もバラバラになり、練習することもままならぬ状態でした。しかし、全国の師範先生方や、講員の方々の支援や、募金活動等により法具一式を揃えて頂き、お蔭様で、こうして皆で大会に参加でき本当に感謝しています。又、津波で義母がまだ行方不明の中、代表で焼香させて頂き、感無量でございました。今後この震災の記憶を風化させてはならないと思うと共に、ぜひ前向きに生きていきたいと思っています。最後に皆様の御健勝とご活躍を心より祈念致します。

宮城県 高源院講 鈴木やすえ
合掌

全国大会に思いを寄せて

五月三〇日、全国各地から、たくさんの方丈様方、梅花講の皆様がお越しになり、盛大に梅花流全国奉詠大会を行っていただきました。そのうえ、震災を被り多くの方々に助けていただいた私たちに、震災の為の法要までしていただき、誠にありがとうございました。梅花講に入会して本当に良かったと痛感いたしました。方丈様方の読経と皆様の御詠歌に、感無量でございました。入講して色々な方にめぐり会い、あの大きな会場で、照源寺講代表焼香までお任せつかり、感謝にたえません。今後、全国の皆様のお気持ちを受け止めながら、日々暮らしてまいります。

宮城県 照源寺講 木村みや
合掌

代表焼香者供養の祈り

全国大会代表焼香を終えて

平成二十五年五月二十九日、宮城県「グランディ21」にて開催された梅花流全国奉詠大会で、代表焼香をつとめさせていただきました。これは私にとって初めての経験でした。会場は北は北海道、南は九州からの参加者で一杯で、その方々のお唱えに非常に感動したことを今でも忘れません。

東日本大震災は決して忘れられないことのない大惨事となり、多くの生命、財産、町並みが失われました。その後世界中の人達から支援や励ましの言葉などを頂きました。

私はこの震災で家族二人を亡くしましたが、代表焼香の方々の中には、家族三人を亡くされた方、お嫁さんとお孫さんを亡くされた方などがいらっしゃると思いました。そのような方達と様々なお話をし、共に涙したことが思い出されます。

この経験をさせて頂き、今まで以上に詠讃歌を唱えることで気持ち癒され、仏様に向き合うことができる様になりました。

この度は貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

岩手県 龍泉寺講 吉田吉子
合掌

震災三回忌の代表焼香を終えて

私は梅花の門を叩いて四年ほど経ちますが、全国大会は初めてでした。大会では全国のお仲間の声援や和尚さんの有難いお言葉に感激しました。体調が不安でしたが、思い切って参加して本当に良かったと思いました。そして、皆さまがたの代表として焼香をする時にはとても胸がいっぱいになりました。それというのも同じ梅花講の大切なお仲間の一人が天津波で行方不明になっているからです。

彼女は私を梅花講に誘ってくれただけでなく、先輩として親切に接してくれた、とても優しいかたでした。もしあの震災が起きなかつたら、今でも一緒に机を並べて楽しく御詠歌を学んでいたことでしょう。

有難いことに最近何名かのお仲間が梅花講に入ってくれました。未だ戻らぬ先輩がそうしてくれたように、新しいお仲間を大切にしたいなと思います。

この度は貴重な機会を頂いて感謝しております。これからも皆さまがたと一緒に同行同修の道を歩んで行きたいと思えます。

福島県 新祥寺講 清水吉子
合掌



乙川 良介 梅花流特派師範

さすが同行同修梅花のパワーです。ハワイでは正座でのお唱えがなく、立行か椅子に座って打鉦鳴鈴(だしよめいれい)するスタイルが基本のようです。お唱えは、和讃を中心に練習

平成二十五年十月三十一日から十一月十五日まで、ハワイ特派巡回に赴きました。折りしもハワイでは国際布教百十周年・両大本山別院正法寺創立百周年を迎え、各寺梅花講員の皆さまも記念行事に向けて意欲的に取組んでいらっしゃる姿に大変感銘を受けました。講習会場では、とにかく皆さん一生懸命で積極的にお唱えされます。また、質問も次々と飛び出してすぐに心がつながるのです。スゴイ、

本日はボクが取材に行きたかったけど飛行機の座席に座れないので、ハワイを巡回してくれた乙川先生にお話を聞いてみました。



ハワイ特派巡回 ハワイ開教二一〇周年

こんにちは!! ばいかくんです。

毎年、海外で特派師範の先生による講習が開かれているのはご存知ですか?今年も

南米に始まり、アメリカ本土やハワイでの巡回を実施しました。中でもハワイは、今年で曹洞宗が開かれてちょうど百十周年。記念の法要が開かれました。



正法寺創立100周年記念法要



カウアイ禅宗寺
ハワイ開教110周年記念法要



ワイパフ大陽寺

しているとのこと。また、日本と同じく若い新入講員さんがなかなか望めないようです。日本語が解らない三世・四世のかたには難しいのかもしれないですね。これからは、英訳の歌詞も必要かもしれませんね。
各寺院では、月曜から金曜まで、毎日午前中に梅花以外の講座も開かれます。和太鼓、フラダンス、日本舞踊、盆踊りなど多種多様な講座が開かれ、多くの梅花講員さんがそれらの講座に参加します。
ハワイのお寺と檀信徒さんは、もう家族、親戚の關係で、毎日のお寺へ足運びます。和氣あいあいと梅花を楽しむ様子は、うらやましい限りです。見習わないといけませんね。



Q & A

現地の講員さんにお話を伺ってきました。

Q. これまで梅花をやつてきて心に残る思い出はありますか?

A. 知人の葬儀で唱えた涅槃の御詠歌に心から感動したこと。
正法寺講 吉本律子さん

A. 六十年間梅花を唱えてきましたが、その全てが心に残っています。
太平寺講 小島みどりさん



ヒコ大正寺



アイエア太平寺

A. 自分が梅花を唱えるときに、周りの方にも梅花の素晴らしさをわかってもらえたと思える瞬間が一番喜ばしく感じます。
大正寺講 齊藤マサエさん

A. 心の安らぎを感じるとき。梅花を始めてから怒つたりしなくなり、我慢強くなった。
大陽寺講 小山フサ子さん

Q. 梅花をお唱えしているとき、幸せに感じるときはどんなときですか?



こうかな?まじめに作法の習得に努めます。



陽気な講員さんたち。笑顔が絶えません。

梅花流創立六十周年記念事業 大聖釈迦牟尼如来 讚仰御詠歌(高嶺)歌碑建立



今もなお世の高嶺に月ぞすむ人け入佐の山とおもえど
江戸中興但馬諸君の普濟宗龍湧寺十二世住持非龍撰述
『道田茶坊』に所収の「普在堂高嶺」と題される詠歌梅花流
孫道歌大聖釈迦牟尼如来讚仰御詠歌高嶺として永く詠
絶かれています。梅花流創立六十周年を記念し、この地に
宗鏡さまのご好意を頂き、これを建立する。
平成二十五年三月吉日
普濟宗管長 大本山水子寺首 福山 詠法

昨年四月、兵庫県豊岡市出石(いずし)町に新たな梅花霊場が誕生しました。
この地には、公園として住民の憩いの場となっている入佐山という標高九十メートルほどの山があります。ご存知の通り『大聖釈迦牟尼如来讚仰御詠歌』(高嶺)の歌詞にも詠われるこの山は、古くから多くの歌人に愛され、歌の題材として度々登場してきました。我が梅花流でも『高嶺』として詠い継がれる入佐山とのご縁を形あるものにしたいとのお思いから、梅花流創立六十周年記念事業の一環として、入佐山ふもとの臨濟宗宗鏡寺さま境内に『高嶺』の歌碑を建立することとなりました。

平成二十五年四月一九日、歌碑建立に際し、宗鏡寺さまにおいて歌碑除幕式がとり行われました。齋藤裕道伝道部長が導師を勤められ、梅花流専門委員と全国より参集した梅花流特派師範、兵庫県第二宗務所長 岡本肇也老師、地元の梅花講員さんも参列なさいました。
建立場所をご提供くださった臨濟宗宗鏡寺住職 小原游堂老師、NPO 法人但馬國出石観光協会理事長 中易培根さまも来賓としてご臨席され、ごあいさつのお言葉をいただきました。
参列された梅花講員さんからは「また友人を案内して一緒に来たい」という声も聞かれ、梅花流のPR的役割も大いに期待されます。



今もなお 鷲の高嶺に月ぞすむ
人は入佐の山とおもえど

『大聖釈迦牟尼如来讚仰御詠歌』（高嶺）の歌詞は玄楼奥龍撰述の『道用桑偈（どうようそうげ）』に所収されている「常在靈鷲山（じょうようざいりょうじゆせん）」と題される道歌がもとになっています。

玄楼奥龍（げんろうおうりゅう）

一七二〇（享保五）年、伊勢国志摩鵜方村（現 三重県志摩市阿児町鵜方）に生まれ、九歳のとき伊勢国方座の臨濟宗海徳寺の祖屋長老について出家され、修行の日々を送る。その後、二十四歳のとき、当時滞在していた上総の松雲寺を出て、越中の最勝寺、出雲の妙義寺などで修行に励んだ。

一七六七（明和四）年には、住職として但馬国の龍満寺へ入り、二十六年間を過ごす。龍満寺では、「狼玄楼」の異名をとるほどに弟子たちには厳しく接したという。一七九三（寛政五）年に龍満寺を出て、駿河の静居寺の座首として迎えられ、後に京都府宇治市の興聖寺の二十二世住職となった。

一八一三（文化十）年、大阪北野の当陽軒で死去。享年九十四歳。弟子には山水画で有名な風外本高和尚などがある。

宗鏡寺（すきしょうじ）

山号を圓覚山とし、臨濟宗大徳寺派に属する。二二九二（明徳三）年に当時の出石城主であった山名陸奥守氏清公が建立し、京都五山の一つである東福寺の大道一以禅師が開山となる。開山当初は山陰一の伽藍を誇っていたが、織田信長の但馬征伐で山名家が減びるとともに、寺も荒廃した。

一六一六（元和二）年、出石城主の小出吉英の援助により再び寺が興されると、沢庵漬けで有名な沢庵和尚を新たに開山として招き、但馬地方屈指の名刹として興隆を取り戻す。

幼少期に宗鏡寺にて得度をされ、宗鏡寺中興の祖となった沢庵和尚との深い由縁から別名「沢庵寺」とも呼ばれ、臨濟宗大徳寺派の但馬における中本山として今も名を馳せている。

『高嶺』歌碑を見学したあとは、地元出石町の豊富な観光スポットへ。歴史と皿そばの町・出石は、「古事記」「日本書紀」にも登場する古い町です。歴史情緒漂う城下町を散策すれば、往時にタイムスリップしたようです。



▲ 出石皿そば
出石は関西屈指のそば処。白磁の小皿に盛り付けるのが特徴です。



◀ 出石焼
透き通るような白さと、匠の技が施された彫刻の繊細さが特徴です。



◀ 町並み
出石城跡や家老屋敷、町家や社寺など、城下町の面影が色濃く残ります。



▲ 出石温泉館「乙女の湯」
高台に湧き出る温泉は別名「美人の湯」と呼ばれ、なめらかな肌触りと保温性の高さで人気です。



▲ 辰鼓楼
1871(明治4)年、旧三の丸大手門脇の檣台に建てられた太鼓檣。



▲ 出石神社
但馬一の宮で、古くは、「古事記」「日本書紀」にも名を連ねる、山陰有数の大社です。



● お車でお越しの方
大阪・神戸・京都から約3時間。
姫路から約2時間。

● JRでお越しの方
京都方面から特急で約2時間30分 / JR山陰本線にて「豊岡駅」「江原駅」「八鹿駅」下車。全但バス、出石行きで約30分。
大阪方面から特急で約2時間30分 / JR福知山線にて「豊岡駅」「江原駅」「八鹿駅」下車。全但バス、出石行きで約30分。

▶ 出石永楽館
1901(明治34)年にできた近畿最古の芝居小屋。歌舞伎などが上演され、但馬の大眾文化を担いました。平成20年に大修理され、よみがえりました。





特別講習の時間には、東日本大震災三回忌を迎えるにあたって三宝殿近くに遷座された「平成救世観音」前にて詠讃歌をお唱えしました。

平成二十五年度宗務庁主催 梅花流檀信徒講習会

昨年十一月二十七日(十一月二十九日の三日間)で、大本山總持寺を会場に宗務庁主催梅花流檀信徒講習会が開講されました。大祖堂での開講式に始まり、ご本山の朝のお勤め、精進料理の食事など、参加者にとって普段は経験できない貴重な時間を過ごしました。



ご本山で開催される宗務庁主催梅花流檀信徒講習会は、普段はできないご本堂でのお唱えや、修行僧が心を込めて作った精進料理によるお食事な

ど、魅力的な体験が目白押しです。梅花がつなぐご本山との仏縁に感謝しつつ、皆さまも宗務庁主催梅花流檀信徒講習会に参加しませんか?

※平成二十六年年度宗務庁主催梅花流檀信徒講習会は大本山永平寺を会場に開催されます。日程の詳細は四月ごろの発表となりますので、所属の梅花講までお問い合わせください。

詠道課だより

洋楽譜ダウンロードについて

曹洞宗公式サイト「曹洞禅ネット」の梅花流ページにおきまして、梅花流詠讃歌洋楽譜が閲覧できるようにいたしました。下記URLからどなたでもご覧いただけますので是非ともご利用ください。また、ダウンロードいただきました洋楽譜のご利用は私的利用のみに限ります。

曹洞禅ネット
洋楽譜ダウンロードページ
<http://www.sotozen-net.or.jp/baika/yougaku>



梅花流詠讃歌教典について

(お詫びと訂正)

梅花流詠讃歌教典(改訂第四版一刷発行)に誤りがございました。謹んでお詫びし、訂正いたします。

《梅花流詠讃歌教典》
教典目次

誤 新精霊供養御和讃 曲譜

正 新亡精霊供養御和讃 曲譜

281 281

平成二十六年年度

梅花流全国奉詠大会について

本年、五月二十八日(水)～五月二十九日

(木)の二日間にわたり、平成二十六年年度梅花流全国奉詠大会が開催されます。当初は平成二十二年に開催予定でしたが、東日本大震災等の影響で五年越しの開催となりました。会場となる島根県立浜山体育館「カミアリーナ」にて、地元島根の講師の皆さまが首を長くしてお待ちです。



平成26年度梅花流全国奉詠大会会場
島根県立浜山体育館「カミアリーナ」

※代表登壇奉詠について

従前は参加者が全員登壇しての奉詠でしたが、平成二十四年度の大会以降は登壇整列での長時間の拘束による支障、登壇者の整列、待機スペースの確保等、会場の諸事情により人数を限つての代表登壇とし、それ以外の参加者は自席奉詠としております。

今後はなるべく多くの皆さまに登壇いただけるよう工夫いたして参りますので、よろしくご理解いただきますようお願いいたします。